

いつも大変お世話になり、ありがとうございます。

参議院選挙が終わり、与党が歴史的な大敗を喫しました。

これは、1)物価高で生活が厳しい、2)外国人の土地取得や移民政策があまりにも緩い、3)衆議院で与党過半数割れの中、石破政権が強い方針を打ち出せていない、4)「政治と金」問題が根本的に解決していない、といった原因があると捉えています。

どの不満も至極当然です。しかし、その不満の受け皿になった野党も、「雨後の筍」のように数が増え、どこも政権を担うほどの議席数がありません。野党の連携もなかなか難しい。連携して政権を担ったとしても、立憲、国民、参政、維新、共産それぞれの政策は「月とスッポン」であり、混乱するだけでしょ。

どの党も過半数を占めていないので、下手すれば、法案も予算案も通らず、国会が機能不全に陥ります。

これを避けるためには、1)連立、2)与党と野党が個別の政策ごとに協力、3)野党の間で個別の法案について連携、4)与党が過半数を確保するために他会派の議員を一本釣りする、5)政界再編、6)自民・公明が下野、といった選択しかありません。

一番障害物が少ないのは、これまでのように2)の選択をとることです。たしかに、責任感をもった与野党が個別の政策で合意して、法案や予算案を通せたら、国会の議論が活発になるかもしれません。しかし、現実には、野党は政権に入っていないため、財源を疎かにしたり、党利党略のパフォーマンスに走りがちになってしまいます。

「政権交代がないと与党が墮落する」ことはよく言われますが、一方で、野党は無責任になりがちです。なぜなら、野党のまま政権に対して要望だけすれば、結果責任は取らなくて済むからです。

いずれにせよ、今後、政界で様々な動きがありますが、今後は混乱していく可能性が高いと言わざるを得ません。内外の課題がますます山積しているため、私は安定した国家運営ができる政権が必要だと考えます。

自民党は根本的な改革が求められます。他方、野党は、議席が増え、権限が強くなったので、「自分も政権の一部を担っている」という責任感が求められます。権限と責任は表裏一体でなければなりません。「権限はあるけど、責任は取らない」では、亡国の道へまっしぐらです。

難しい局面ですが、「京都のため、日本のため」どのような行動をすべきか、よく考えながら、引き続き、皆様とともに歩んでまいります。